

会議録

1 附属機関の名称

犬山市文化財保存活用地域計画策定委員会

2 開催日時

令和 3 年 7 月 19 日（月） 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで

3 開催場所

犬山市役所 4 階 401 会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

赤塚次郎、笈真理子、鬼頭秀明、佐藤正知、村上恵美子、奥村好樹、中田哲夫、望月友恵、丸山和成、洲寄和宏

(2) 執行機関

滝教育長、中村教育部長

（歴史まちづくり課）中村課長、加藤課長補佐、渡邊統括主査、中村主査補

5 報告事項・協議事項

報告事項：令和 2 年度事業成果について

協議事項：(1) 令和 3 年度事業計画案について

(2) 犬山市文化財保存活用地域計画構成案について

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

(1) 報告事項

① 令和 2 年度事業成果について

事務局より、資料に基づき令和 2 年度犬山市文化財保存活用地域計画作成事業の成果について説明した。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員： 都市計画マスタープランの中に「都市防災等の方針」とあるが、城下町地区で商売のみしている方も多く、火事も 2 回あったため、そのような現状を踏まえて、もう少し具体的な内容を記述した方が望ましい。

（2）協議事項

①令和3年度事業計画案について

事務局より、資料に基づき令和3年度の事業計画案について説明し、委員の意見を求めた。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員： 市民向けアンケート調査の対象者を小学校区から抽出する際に、バランスに配慮してもらいたい。

問5の「犬山市らしいと思う文化財」について、他の選択肢に比べて具体的すぎるように思われるものがある。例えば、7番目であれば「犬山の風景絵画（例えば、吉田初三郎の鳥瞰図 等）」としてはどうか。

問7について、歴史を知らない方にはわからない選択肢がある。後ろにかっこ書きで説明を追加すれば、文化財の説明とともに、実際に行ってみたいという気持ちも抱かせることが期待できるのでは。

設問とは直接関係ないが、「歴史関係の道標や石碑等をきれいにするボランティア」ができるとよいと考えている。

事務局： アンケート調査の対象については、地域人口で按分するといった整理を検討している。

問5の選択肢については、「犬山市らしいと思う文化財」をご回答いただくにあたり、一般的な書き方よりも、具体的な名前を出している。

問7については、行ったことや見たことがある文化財をご回答いただくものであり、選択される方は、ある程度、当該文化財について把握しているものと考えている。

委員： 問10は、いくつかの選択肢をまとめるなど、文化財に全く携わっていない人にも、選択肢の違いが把握できるようにした方が良い。

委員： 分析結果を広報等で周知する予定はあるか。何かしらの方法でお知らせした方が良い。

事務局： 検討する。

委員： 問1の「文化財に関心」というのは、市内の文化財という整理でよいか。

事務局： こちらは文化財全般に対する関心である。

委員： 問15について、回答する際は、市内に所在する未指定文化財のみを回答すればよいか。

委員： 問10の選択肢にクラウドファンディング等の民間資金活用に関する設問を追加してはどうか。クラウドファンディングについては、愛知県の大綱にも記載されていたと記憶している。

事務局： 内容については、再度検討する。

問15については、文化財の指定・登録状況を把握されていない市民の方もいらっしゃると思われるため、指定・登録文化財の回答も想定している。

委員： 問9の犬山市の取組の中に、景観条例の助成制度等も含めた方が良い。

委員： アンケート調査の回収率は、どの程度を想定しているか。また、回収率向上に向けて、調査の実施内容や意義などを事前に周知できると良い。

事務局： 以前担当した総合計画のアンケートでは50%強の回収率であった。それを踏まえると、大体1,000名程度からの回収が見込めるのではないかと考えている。サンプル数が1,000以上あれば、標本誤差を少なくすることが可能。

委員： 団体へのアンケートについて、意味の分かりづらい用語はわかりやすい表現にした方が良い。

委員： 市内文化財関連団体等一覧について、城下町で店を営業されている方々は意図的に除外しているのか。実際に古民家を活用している方々との接点がないまま調査が進んで行かないように、文化財として認識していないものの、商売をされている方々とも意見交換をする必要があると思われる。

事務局： 城下町で店を営業されている方々については、ヒアリングの対象から意図的に除外している訳ではなく、今回挙げている団体とは別のカテゴリーと認識している。今回のヒアリングとは別の仕組みで現状を把握することを検討する。

委員： 店側の意見を把握したいのであれば、TMOのような機関を活用するのがよい。

事務局： TMOでは店舗の連絡会等を行っている。実際、意識はしていないものの、文化財の活用に貢献しているため、このような機関の活用も参考にさせていただく。

委員： 町内会や保存会は、例えば津島講のように当たり前のこととして行っているものについては、そもそも文化財として認識されていないように思われる。このような団体に対しては、特に対面ヒアリングが重要であると考えられる。

②犬山市文化財保存活用地域計画構成案について

事務局より、資料に基づき犬山市文化財保存活用地域計画構成案、関連文化財群について説明し、犬山市の歴史文化の特徴や関連文化財群のヒントとなるようなキーワードについて、委員の意見を求めた。

【委員からの意見と事務局の回答】

委員長： 分かりやすい切り口として、関連文化財群の設定はよいと思う。ヒントとなるようなキーワードがあれば、自由にご意見をいただきたい。

委員： 関連文化財群設定の考え方はいろいろあると思うが、大きく分けると、核となる文化財を中心に関連する文化財をまとめながら設定する考え方、そして、犬山の特徴を踏まえて設定する考え方がある。例えば、愛

知県は円空仏が広い地域に分布しているという特徴があり、このような視点を犬山市も取り入れてはどうか。

委員： 団体ヒアリングにも関係するが、対面ヒアリングをすれば、会話の中で意見やコメントを引き出すことが可能。一方、アンケート形式では、興味がなかったりイメージできなかつたりした場合、回答を引き出せないデメリットがある。他自治体では、市民アンケート調査に加えてワークショップを開催している所もあり、対面が重要であるという視点を持っていただきたい。

犬山市では既に歴史的風致維持向上計画が作られており、それが犬山市の特徴であり、先進的な所である。歴史的風致維持向上計画で不足している部分や偏っている部分を洗い出し、本計画ではより広い視点をもって進めた方がよい。

犬山市には犬山城という核になる文化財がある。以前は、全てが犬山城に紐づいているという認識だったが、最近は異なる考えを抱くようになった。今回の計画作成を通じて、もう少し犬山の魅力を見つけられるのではないかと思う。

委員： 名古屋市の歴史文化基本構想を見ると、文化財の特徴を幅広く捉えていることが分かる。翻って犬山市を考えると、例えば治水関係が足りないかと思われる。歴史的風致維持向上計画に沿って考えつつ、名古屋市の事例も参考にするとよい。

事務局： 歴史的風致維持向上計画はひとつのベースになるが、同計画で位置付けているものは、あくまで歴史的風致であり、対象が限定される。一方、本計画は、歴史的風致の定義から外れたものであっても群として設定することができ、そのような視点から、補強・発展させていくという考え方になるのではないか。

委員： 犬山市ではないが、由緒ある寺院が檀家数の減少に伴い廃寺になったり、個人の土地に建てられていた偉人の石碑が消失したりした事例がある。今後、このような文化財がますます逸失していくことを懸念している。先ほどクラウドファンディングの話が出ていたが、心ある人たちが少しでも援助し、場合によっては行政も歴史的価値を見出した文化財に対しては助成金を検討してもらえるとよい。

委員： 入鹿池は犬山市にとって治水における重要な場所であると考えられる。江戸時代初期に灌漑を目的として作られた池であり、その後、入鹿切れによる被害もあった。後世に伝えていくという意味も込めて、災害の遺跡として関連文化財群に取り入れる視点があれば良いと思う。記憶としてのアピールができれば、犬山市の特色が出せるのではないか。

委員長： 記憶遺産という視点は非常に重要である。

委員： 犬山市の観光は、名古屋鉄道と共に歩んできた歴史があり、深い関わりがあるため、鉄道業に係る関連文化財群を設定できないか考えている。

様式第2（第5条関係）

- 事務局： 明治村やリトルワールド等、犬山市は文化財を観光に活かす先進的な取組を進めてきており、可能性はあると考えている。
- 委員： 歴史的風致維持向上計画を見ても、犬山市の観光の歴史は記載されていない。犬山市と名古屋鉄道との関係を歴史的に辿ることは良いと思う。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響によって観光のあり方が変わってきており、これと文化財を結びつけることの可否についても考えておく必要がある。その前提として、今まで名古屋鉄道がどのように観光開発を進めてきたかについて整理しておく必要がある。
- 委員： 犬山市と名古屋鉄道との歴史を整理することは、犬山市と名古屋鉄道の双方にとって大事だと思う。犬山市に焦点を当てたということは、それだけ犬山市のことを深く把握していたということ。名古屋鉄道との歴史を調べることによって、市の利点や欠点を明らかにすることが期待される。
- 委員： 犬山市観光戦略市民会議のテーマは「水域・水流」である。犬山市が栄えた一番の要因は木曽川であり、木曽川の流れがあってこそ城郭が建てられ、まちが発展した。関連文化財群は、まとまった空間性や区域を伴うとは限らないという特徴を踏まえると、木曽川を関連文化財群のテーマとすれば良いと思う。
- 委員： 仮に木曽川を関連文化財群とする際は、他市町村との広域的なつながりを視野に入れていただければ興味深いと思う。犬山から鵜沼へ行く橋は文化財にはなっていないか。
- 事務局： なっていない。
- 委員： 犬山市は、他市町村に比べてコミュニティ活動が盛んである。その理由として、市ができる前までは楽田村や羽黒村などが形成されていたためと考えており、地域ごとのまとまりが強い。全市博物館構想の際も地区毎に分類していたが、このような地域のまとまりを関連文化財群に設定すれば良いと思う。
- 委員： 犬山市は民俗文化財の行事が多く行われている。特に夏の人形送りは、愛知県内において数として一番多く残っている。これを将来に残すことができれば、犬山市の特徴になると思う。
- 委員： 城下町のような核となる文化財がある地域は良いが、その周辺にある農山村部等をどのように捉えるかが重要。犬山市の歴史的環境も城下町に関する記述の割合が多いようだ。様々な文化は江戸時代がひとつの出発点となっており、そこを少し深掘りしてもらいたい。
- 委員： 古墳時代のあとに江戸時代になってしまう。尾張二の宮があったことも、もう少し深掘りしてもよいのではないか。
- 委員： 犬山市の周辺地域に目配りし、地名の由来等に焦点を当てれば、関心を得られると思う。歴史的風致維持向上計画は城下町中心にまとめられていたので、その周辺環境にも裾野を広げてもらいたい。
- 委員： 現在、愛知県内では、文化財保存活用地域計画に向けて、犬山市を含

様式第2（第5条関係）

む 5 市町が作成に取り組んでいる状況であり、来年度には新たに 4 市町が作成に向けて動き出す。その中で、岡崎市が 7 月 16 日に文化庁から認定を受けた。県内の市町の会議に出席させてもらっているが、中でも犬山市の会議は非常に建設的な意見が多く交わされている印象である。今回も様々なキーワードが出て、取りまとめることは大変かと思われるが、計画作成に向けて推進してもらえればと思う。

委員長： 犬山市には山姥物語や、やろか水などの物語が数多く残されている。それらも関連文化財群に加えることができれば面白い。

本日は、委員の皆様から様々なご意見を頂戴した。事務局は、本日のご意見を踏まえて、次回に関連文化財群のイメージを示してもらいたい。